



crossing cafe



Vol.20

2025.3.1

発行:スペースベン
毎月1日 324部発行
〈webでも配信中〉
<https://bit.ly/3U8LdnL>

TOPIC

今槇優が見た ネオ二平の 歴史アーカイブ展

2025. 02.19 - 03.07
毎週水曜・金曜 19:00 - 20:00
完全予約制

瞑想の儀式

ナイラー・スタジオ
英国ロンドン拠点クリエイティブ集団



2025. 03.15 - 03.31
11:00 - 18:00 休館日 月曜・火曜

〈学生企画展〉
会場構成/今槇優・土屋圭輔(山形大学)

記憶と痕跡

— 今槇優がみたネオ二平の
変遷と歴史アーカイブ —



アートスペース ネオ二平
<https://www.neoippeii.com>

八戸市朔日町23

1月~2月にかけて開催した
「Tim Porter展 "Sounds of Meditation" 瞑想シアター試写会」より

〈スペースベン 3月の予定〉

FANS 予定 第1622~1625回

毎週金曜日の夜7時30分から約30分の芝居やダンスやライブを楽しむ企画です。
一般前売500円/大学生以下前売200円(当日それぞれ100円増)

「だべり場」「かたり場」「ほだれ場」随時開催しています

■ 3/28(金) ほだれ場 19:30-21:00予定

〈Dance Lesson〉

■ 毎週火曜日 20:15-21:45/KAZU HIPHOP DANCE SCHOOL

■ 最終水曜日 19:30-20:30/SEGA HIPHOP

■ 毎週土曜日 16:30-18:00/BRE FAM HOUSE DANCE HARUクラス

〈古典戯曲を味わう会〉

国内外の古典戯曲から参加者で選んだ作品を読み、楽しむ企画です。

■ 3月は第2・4水曜日(通常毎月第1・3水曜日開催) 14:00-15:30予定。

※知念正真「人類館」他を予定

※参加費¥100。Zoomにて開催中。日時等変更になる場合があります。

〈Free Column〉

劇場の 片隅から

文/佐藤 拓之
(フォーチュンシアター)

東京では八戸より早く春の兆し。梅は咲き香り、早咲きの桜もちょんぱりと咲き始めている。とはいえ三寒四温。家から出たくない寒さの日も。そんな時、映画の配信サービスをよく利用している。映画館の大きなスクリーンも良いが、手元に旬のものを並べて見るクリントイーストウッドも乙。映画は数多くあれど見るべき所は「岐路に立たされた人々がどんなを選択をするのか?」それに尽きると言っても過言ではない。さて、男山にするか八仙にするか…

〈theater information〉



第18回年次大会in八戸
日本文化政策学会
縮小社会の地方創生と文化のデモクラシー

【日時】2025.3.15(土)・16(日)

【場所】八戸市美術館

八戸ポータルミュージアム はっち
八戸グランドホテル

〈一般公開プログラム〉参加無料・要申込

●シンポジウム1

3.15(土) 15:10-18:50

地方自治体の自律的な文化政策のあり方を考える
一直営スタイルの八戸の実践から—
八戸グランドホテル(2Fグランドホール)

●シンポジウム2

3.15(土) 16:50-18:50

地域アーツカウンスル、現状と展望
八戸グランドホテル(2Fグランドホール)

企画フォーラム 3.15(土) 11:10-13:10

●企画フォーラム1

説明能力(account-ability)を高める
評価の試み —八戸市美術館、札幌市民
交流プラザ、アーツコミッション・ヨコハ
マの実践—

八戸市美術館(ジャイアントルーム)

●企画フォーラム2

劇場・音楽堂等の専門職の
育成カリキュラムと資格制度を考える
八戸市美術館(スタジオ)

●企画フォーラム3

若手研究者によるピアレビュー

「実践に基づいた研究の可能性と課題」
八戸ポータルミュージアム はっち(シアター1)

●企画フォーラム4

こども食堂等「地域の居場所」におけるアートワーク
ショップ活動の意義に関する政策的文脈の試み
と将来展望 —20世紀後半以降の芸術及び政策の
動向を手がかりとして

八戸ポータルミュージアム はっち(シアター2)

企画フォーラム 3.16(日)

●企画フォーラム5 9:10-11:10

都市計画行政と文化行政の垣根を越えて
〜コンパクトシティ政策のその先へ〜
八戸市美術館(ジャイアントルーム)

●企画フォーラム6 9:10-11:10

文化政策の道のりと原理と再定義:
「脱制度化のアートマネジメント」から考える(仮)
八戸市グランドホテル(2F トパーズ)

●企画フォーラム7 13:25-15:25

芸術実践を「翻訳」できるのか:
アートベース・リサーチを手掛かりに(仮)
八戸市美術館(ジャイアントルーム)

●企画フォーラム8 13:25-15:25

国レベルの文化政策と地方創生
八戸市グランドホテル(2F トパーズ)

【申込】

<https://peatix.com/event/4257635>



シンポジウムとフォーラムは無料。当日申込・
参加も可能(定員に達している場合あり)。
大会(分科会)、懇親会に参加(有料)の場合は
日本文化政策学会WEBページ

<https://www.jacpr.jp>に掲載の開催要綱を
ご覧の上お申込・お支払い。

【問合せ】第18回年次大会実行委員会八戸事務局
八戸市美術館 ☎0178-45-8338
art@city.hachinohe.aomori.jp

特別寄稿

青森の版画教育の種子をたどる

文／高橋 麻衣
(八戸市美術館学芸員)



八戸市立湊中学校養護学級生徒『星空をペガサスと牛が飛んでいく』『虹の上をとぶ船総集編II』1976、八戸市美術館蔵

みなさんは版画をつくったことがあるだろうか？ この質問を青森県の在住者や出身者に投げかけると、大抵の人はつくったことがあると答える。このように、青森県は版画制作が盛んな地域であり、八戸市美術館で開催した「風のなかを飛ぶ種子 青森の教育版画」は、青森の版画教育の歴史を紐解く展覧会である。

本展は、版画教育の種として、弘前市出身の版画家今純三を紹介するところから始まる。1927年に青森県師範学校の美術教員となった今は、穏やかな人柄と版画制作に対する熱い姿勢で、師範学校の教え子たちだけでなく、青森で美術を志す若者たちから慕われた。やがて弟子たちが版画家や教員となり、学校での版画教育に携わることで、青森の版画教育は芽吹いていく。

こうした動きに加えて、戦後の新たな学校教育として注目を浴びた「教育版画運動」も、青森の版画教育を飛躍させていく。この運動では、版画づくりを通して、子どもたちの人間力を育むことが目指された。特に、版画家・教育者の大田耕士を中心に、1951年に設立された「日本教育版画協会」によって、各地で教員向けの講習会や版画コンクールを開催されたことで活発化し、学校でつくられた版画は「教育版画」と呼ばれるようになった。五戸町出身の教育者・版画家で、今純三の弟子の江渡益太郎が中心となって1956年に開催した版画講習会では、大田が招かれ、講師をつとめた。ここで大田と出会い、八戸で教育版画に取り組んだのが、中学校の美術教員であった坂本小九郎である。

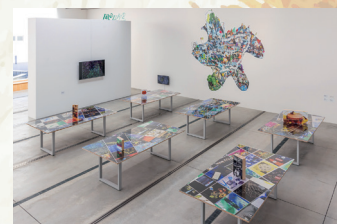
坂本は、当時赴任していた鮫中学校で、「生活を見つめて表現する」という教育版画の精神に基づき、海で働く人々を題材とした版画制作を指導した。生徒たちは作品づくりを通して、力強く生きる人間の「美しさ」を学んでいた。坂本は、南浜中学校、江陽中学校を経て、湊中学校養護学級の担任となる。坂本は各学校でその地域に合わせた作品を指導していった。例え

ば、湊中学校で生まれた「虹の上をとぶ船」シリーズは、空想と現実が混ざり合う独自の世界観で多くの人々を魅了した。さらに、シリーズのうち『虹の上をとぶ船総集編II』の『星空をペガサスと牛が飛んでいく』は、宮崎駿監督（義父は大田耕士である）の映画『魔女の宅急便』の劇中画のモデルとなった。

版画教育の実践者たちは、版画を、人と人をつなぎ、新たな活動を生む「風の中を飛ぶ種子」として捉えていた。本展も、坂本が指導した548点もの教育版画が、八戸市美術館に収蔵され、受け継がれてきたからこそ生まれたものである。本展の最後は、新たな試みとして、現代のアーティストと市内の子どもたちの共同制作を展示している。作品をつくる子どもたちの楽しそうな姿は、表現することの喜びや可能性はいつまでも変わらないことを教えてくれる。



■風のなかを飛ぶ種子 青森の教育版画
2024.10.12(土)～2025.1.13.(月) 八戸市美術館



●筆者近況

1月に展覧会が終わり、教育版画の題材にもなった戦争体験を少しでも学ぼうと、広島市の平和記念資料館を初めて訪れた。強烈な体験談や展示資料に圧倒されながらも、苦難を乗り越えて築かれた「平和」を、大切に引き継いでいくのが今の私たちの役目だと強く感じた。

FANSで上演・LIVEをやってみませんか？

ジャンルは問いませんので、まずはお気軽にご相談ください



Director
田中 勉

〒031-0081 八戸市柏崎1-11-8
mobile 080(6025)0990 Fax.050(3588)8350
e-mail owner@spaceben.com

<https://spaceben.com/>

crossingcafe

fanscross

crossingcafe

crossingcafe

@fanscafe



FANSってナンだ!?

小劇場「スペースベン」にて、毎週金曜日の夜7時30分から、約30分の芝居を楽しんでいただく企画です。芝居に限らずライブ・ダンス等、ジャンルの枠にとらわれず、金曜日の夜には「ここで何かおもしろい事をやっている」という場になればと思います。なお、料金は特別番組以外全て前売り500円、学生は200円です(当日100円増し)。上演の場を求めている方、刺激を求めているあなた、ご連絡お待ちしております。